



■ 山 | 梨 | 大 | 学 | | 新 | 技 | 術 | 情 | 報 | ク | ラ | ブ |



～インフォメーション～



【第 27-14 号】



産学官連携コーディネータ

活動レポート（コラム）

産学連携コーディネータ 最上 修平

【No.22】

社会連携・研究支援機構 産学官連携コーディネータの最上です。

まず、9/11（金）クラブ交流会、10/2（金）アカデミックサロンには、多くの会員の皆様のご出席を賜りまして誠に有難うございました。大学の先生方のご協力も得て、楽しい交流の時間を持てたと思っております。

朝夕が寒くなりましたね。朝、駅のホームでは、コートを着た方も見掛けます。そんな中で、日本人二人のノーベル賞受賞というホットなニュースがありました。その一人は、本学卒業生で北里大学特別荣誉教授の大村智先生（医学・生理学賞）です。地道な微生物の研究が、アフリカなど発展途上国を中心に猛威を振るっていた熱帯病の特効薬開発につながったというのが受賞理由です。

先生は、抗生物質を作り出す微生物である放線菌を土のサンプルから取り出し、菌が作り出す新しい化学物質を見つけ出す研究をしていました。そして、静岡のゴルフ場の近くで見つけた土から、「エバーメクチン」と呼ばれる、寄生虫の駆除に高い効果を持つ化学物質を生成することのできる放線菌を発見したのです。先生は「微生物の力を借りただけ」と述べていますが、先生の技術は「卓越した技術」と称えられた独自の培養方法にあるそうです。

また、もう一つ注目されたのが、業界では画期的だった産学提携での研究費確保でした。1973年に北里研究所からアメリカのウエスレーヤン大学に留学していた先生は、アメリカ

の製薬会社メルク社と提携を結びます。

アメリカで「大村メソッド」と呼ばれた独自の契約内容で行ったこの産学提携が、研究を大きく躍進させることとなったのです。

その契約内容は、新物質を発見した際の特許出願や権利化、管理はメルク社が請負い、その特許で製品が生まれた時には、その売上高に応じて、研究費を北里研究所に還元するという内容でした。この産学提携のもと、「エバーメクチン」を改良して「イベルメクチン」を作り、寄生虫の駆除薬として実用化したのです。

この契約内容は、現在では大学等の研究機関と企業が提携を結ぶ際の一般的なものですが、当時の日本ではまだ取組みも少なく、反対もあったと言います。

こういう点でも、開拓者だったんですね。

先週 10/24(土)は二十四節気の霜降でした。早朝に霜が降り始める頃という意味です。晩秋を迎え、北の方では朝霜が降り、山々は紅葉に染まります。これから、さらに寒くなっていきます。

(文責 : 産学連携コーディネータ 最上 修平)



■ 技術シーズが紹介されています!!

やまなし技術の宝石箱

<http://www.pref.yamanashi.jp/seichosng/techno-jewel-box/index.html>

山梨中央銀行 山梨大学発"ビジネスチャンス"直行便！

<http://www.yamanashibank.co.jp/hojin/service/shien/765.html>

↓↓↓↓↓↓↓↓

この内容をご覧になって関心がある研究者が見つかりましたら、面談設定も可能ですので是非ご一報ください。



▼ 連絡先

国立大学法人山梨大学
社会連携・研究支援機構
社会連携・知財管理センター
新技術情報クラブ事務局

TEL:055-220-8758

FAX:055-220-8757

renkei-as@yamanashi.ac.jp



- 1) このメールの内容は、提供された会員様限りでご使用下さい。
- 2) メールの内容については国立大学法人山梨大学が著作権を有します。